・”安心”という言葉が、当人にとってのkey wordだと思った。
具体的に私たちの生活している場に、オープンダイアローグがトライできる可能性はあるのか。
対話、話をする、そのままの気持ちを伝えること、謙虚に自分の心を出すことの大切さを感じさせていただいた。
・始めに、オープンダイアローグから学ぶことを、4名の講師からお話いただき、ダイアローグを行う意味とか、
したときの良いところも少しはわかったが、オープンダイアローグというものを当事者がどのように依頼できるのかを知りたい。
・目標を見つける、病状を軽くする、何かを決める、ということではなく会話することが目的。
そこがスタートでありゴールであるというところがとても学びにつながった。
・オープンダイアローグは、定められた答に向かってそれを見つけようとするものではなく
対話を通じて個々人が自身の問題に気づき、自分で解決を見つけようとすることを手助けする治療法なのではないか。
「オープン」とは、特定のところに収束（クローズ）するものではなく、どんなときにも「開かれている」という意味であるということを理解。
・精神病を発病した際のフィンランドと日本のアプローチの仕方が真逆ですね。薬を極力避け、ODアプローチを行政として取り組む…
本当に人を大切にしていて素晴らしいと思いました。
抗精神薬への考え方だけでなく行政の在り方や医療の在り方、社会まで全て違うのだろうと思いますが、日本の薬漬け精神医療が
ODが持つ力で僅かずつでも変わること、また少しでも多くの方がODを受けられるようになることを願っています。
とても勉強になりました！ありがとうございました。
・僕は当事者のため、普段は家族会のイベントに参加することはなかったが、オンライン開催のため、今回は参加できたことが
とても有意義だったと思っている。特に、家族会に参加しているご家族の方々が、ビジネスライクでなく、
「ハート」を持ったつながりで活動されていることに心を打たれた。
・広い会場でのオンライン講演会は、参加者の音声をどの様に取り込むか？　工夫と実証などが必要と思います。
オンラインで参加しましたが、会場の方の質問がほとんど聞き取れ無かった。
・良い研修会をありがとうございました。
・会場の方の質問が聞こえずらかった。
・後半のリフレクティングの部分、海老名の研修会と同じく、お母様の体験談が印象深く、講師の方の話が
お母様にどう受け止められたかがよくわからなかった。
・Zoomを利用しての相談の可能性について
・いつもそうですが、このような学習会の講師の方がたと出会えていたら、当事者（このことばには疑問を持たれているのが、
一個の人間としての存在を認めてもらえているようでもうれしい言葉でした）である息子も違った歩みができた
のではないかと思います。どの地域でもオープンダイアローグを治療に活かす（精神科薬を使わなくても済む？）ことができれば
精神科医療も変わってくるのではないかと期待しています。もっと勉強したいと思います。